



敬語の3-2-2-5-2-2

敬語の勉強をはじめたが、私の提唱する敬語の勉強法（注意点）が「敬語の3-2-2-5-2-2」である。そのうち、前半の「3-2-2」を昨日までに学習した。もう一度ポイントだけまとめると、

＊

(1) 「3通り」の「誰に対して」（敬語の定義に関する勉強1）

- ▼尊敬語＝動作をする人尊敬
- ▼謙讓語＝動作を受ける人尊敬
- ▼丁寧語＝聞く人尊敬

☆尊敬・謙讓・丁寧に区別は暗記する！

(2) 「2通り」の「誰が」（敬語の定義に関する勉強2）

- ▼地の文＝作者（または語り手）
- ▼会話文（手紙文）＝話し手（書き手）

(3) 「2通り」の「訳し方の基本」

- ▼動詞＝一語一語、「『おはす』は『あり・をり』の尊敬語で『イラッシャル』と訳す」など一対一対応で記憶する。
- ▼補助動詞＝訳し方の公式を覚え、その公式を動詞に添加する。

☆上に動詞がなければ「動詞」、上に動詞があれば「補助動詞」！

- 尊敬語 オ～ニナル、オ～ナサル、
- 謙讓語 オ～申シ上ゲル、～サセテイタダク
- 丁寧語 ～デス・マス、～ゴザイマス

＊

さて、後半の「5-2-2」は何かというと、登場した時に詳しく解説するが、

(4) 「5つ」の「二つの用法を持つ敬語」

尊敬語・謙讓語・丁寧語の区別は基本的に暗記によるが、次の5語だけは2つの用法

をもっているために、前後の文脈からどの用法か判断する必要が生じる。

▼給ふ（四段＝尊敬・下二段＝謙讓）

▼参る▼奉る 謙讓＋尊敬

▼侍り▼候ふ 謙讓＋丁寧

☆「給ふ」は活用の種類や用いられ方で判断できるが、他は文脈などで判断する。

(5) 「2通り」の「敬語の重なり方」

敬語が重なって用いられる場合、その骨格として重要になるパターンが2つある。

▼尊敬語＋尊敬語＝二重敬語

☆非常に高い敬意を表し、その場で相対的地位の最も高い人に用いる。

▼謙讓語＋尊敬語＝二方面への敬語

☆一度に二人の人物に敬意を表す。

☆丁寧語がからまってくる場合もあるが、重要なのはこの二つの重なり。尊敬語＋謙讓語といった順にはならないことも大切。

(6) 「2つ」の「絶対敬語」

決まった相手にだけ用いる敬語。主語を決定するのに役立つ。

▼奏す＝（天皇・上皇ニ）奏上スル

▼啓す＝（皇后・皇太子ニ）申シ上ゲル

＊

前半が基本で、後半が応用であることが分かると思うが、この後半が入試などでは大切になってくるのである。

敬語も、助動詞と同じで「慣れ」が大切である。重要な敬語は何度も繰り返し登場するので、意識して学習していれば自然に覚えられはすだ。将来大人になった時にも役立つ知識であり、しっかり理解・暗記して、敬語を上手に使いこなせるようになろう。